

# 地域連携推進会議

令和8年3月28日

## ■ 参加者

- 細川政寛氏(地区社協会長／和井田自治会長／民生委員・児童委員)
- 深堀奈津美氏(利用者家族)
- 中島啓好氏(利用者)

### 職員

- 橋本忠久(施設長)
- 宇都宮康浩(サービス管理責任者)

## 1. オリエンテーション

### ■ 制度概要の共有

地域連携推進会議の目的、対象事業、構成メンバー、義務化の背景について説明を行う。

### ■ 制度導入の背景(権利擁護・透明性)

近年、グループホームにおける虐待事例が増加している現状がある。障害者支援施設は社会福祉法人(非営利)で運営される一方、グループホームは営利法人の参入が可能であり、利益優先によるサービスの質の低下や権利侵害のリスクが指摘されている。

そのため、外部の視点を定期的に取り入れ、透明性を確保する仕組みとして本会議の必要性について共有。

## ■ サービス内容の説明

- 施設入所支援(夜間支援)
- 生活介護(日中活動)

それぞれの役割と、サービスを分けて提供している意義について説明を行う。

## ■ 施設概要の共有

王慈療護園の以下の内容について説明を行う。

- 理念
- 利用者属性(出身市町村、男女比、年齢、平均支援区分 等)
- 年間行事
- 事故報告の状況

特に事故報告については、軽微な外傷や皮下出血も含めて報告・分析を行うことで、重大事故の予防につなげていることを説明。

---

# 2. 施設見学

## ■ 見学内容

- 5階交流スペースでの活動
- 利用者の生活の様子

## ■ 設備説明

- 特殊トイレ(サッポロ式・横臥式)
- リフト機器
- ナースコール

一般家庭にはない設備と、その必要性について説明を行う。

---

## 3. 意見交換

### ■ 細川氏(地域代表)

- 地域では施設の認知度が低く、利用者の生活実態も十分に知られていない現状がある。
  - 見学を通して、環境整備が行き届き、利用者を大切にしている印象を受けた。
  - 福祉避難所としての活用に関心があり、地域防災の拠点としての可能性を感じた。
  - 学童保育等と連携し、見学や交流の機会を設けることで理解促進につながるのではないかと。
- 

### ■ 中島氏(利用者)

- 利用者の思いや言葉を、より適切に外部へ伝えていく必要性を感じている。
  - 「明るい雰囲気施設のづくり」を目指しており、地域との関わりを深めていきたい。
  - 地域との関係構築が進むことで、職員確保にもつながる可能性があると考えている。
- 

### ■ 深堀氏(家族)

- フロアごとに雰囲気の違いがあり印象に残った。
  - 良い施設であるため、より広く認知される機会が必要と感じた。
  - 幼少期から障害のある方と関わる機会を設けることで、理解が深まり、身近な存在として受け入れられるのではないかと。
- 

### ■ 施設長

- 福祉施設は地域と関わらなくても運営が成立してしまう構造があり、その結果として閉鎖的な環境となり、不適切支援のリスクが高まる可能性がある。

- そのため、地域連携を推進し、継続的に外部と関わる仕組みづくりが重要である。
- 今後の方向性として、社会福祉協議会との連携強化、地域交流・企画の実施検討、災害時の拠点機能(福祉避難所)の活用等地域と関わる機会を増やす取り組みを行っていきたい。
- 特に福祉避難所については、地域における避難先としての認知向上と、要支援者の把握・支援体制の強化に取り組めたらと思う。

---

## 4. 今後取り組んでみたいこと

地域との連携をより深めていくため、以下のような取り組みについて意見が出る。

- 地域との相互交流の機会として、慰問の受け入れや、施設利用者が小学校等へ出向くなど、双方向の関わりを持つ取り組みを検討していく。
- また、施設が有する福祉避難所としての機能について、地域住民への認知が十分とは言えない現状があるため、災害時の避難先としての役割や機能について、今後さらに周知を図っていく。

